

風のように

甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一



12 主はこう言われる。見よ、わたしは彼女に向けよう 平和を大河のように 国々の栄えを洪水の流れのように。あなたたちは乳房に養われ 抱いて運ばれ、膝の上であやされる。13 母がその子を慰めるように わたしはあなたたちを慰める。エルサレムであなたたちは慰めを受ける。14 これを見て、あなたたちの心は喜び楽しみ あなたたちの骨は青草のように育つ。主の御手は僕たちと共にあり 憤りは敵に臨むことが、こうして示される

イザヤ66：12～14

行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。 ルカによる福音書10：3

【説教要旨】

私たちの生きる時代は、私たちの足元が揺さぶられています。イスラエルのガザへの攻撃、これを支持するアメリカを決して支持できるものではありません。イスラエルは聖書の民の国であり、アメリカはキリスト教国であり、トランプ大統領を支持するのが福音派という人々です。また、ロシアのウクライナ侵略は、歴史的経緯はあるでしょうが、正教の兄弟の国をどうして侵略し、ロシア正教がプーチン露大統領を支持するのかを理解できません。

キリスト教とはそんなものなのでしょうか。イエス・キリストの教えはそんなことを言っているのでしょうか。いつも問うて、苦慮しています。

本日の聖書日課、イザヤ書は、第三イザヤに属し、奴隷であったバビロン捕囚から解放され、エルサレムに帰還し、新しい時代をイスラエル人は歩みだし、神殿再建を始めましたが、再建が進まないこともあり、現実の生活の厳しさに、帰還の喜びも失せ、熱意も失われ、戸惑

い、新しい生活に希望がもてなくなり、神から離れようとさえしていました。「57:11 誰におびえ、誰を恐れて、お前は欺くのか。お前はわたしを心に留めず／心にかけることもしなかった。わたしがとこしえに沈黙していると思って／わたしを畏れないのか。」

しかし、第三イザヤの流れの中に、神に従うものは幸いを得るという旧約聖書を貫く信仰と共にもう一つ信仰の流れがあります。

65:1 わたしに尋ねようとしないう者にも／わたしは、尋ね出される者となり／わたしを求めようとしないう者にも／見いだされる者となった。わたしの名を呼ばない民にも／わたしはここにいる、ここにいると言った。

神から離れようとする者にも神は尋ね求められるということです。あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。ルカ15：4」というイエスさまの言葉を思い出します。

63:9 彼らの苦難を常に御自分の苦難とし／御前に仕える御使いによって彼らを救い／愛と憐れみをもって彼らを贖い／昔から常に／彼らを負い、彼らを担ってくださった。

現実の生活の厳しさに、帰還の喜びも失せ、熱意も失われ、戸惑い、新しい生活に希望がもてなくなり、また、神から離れようしている人々を裁くのでなく、苦難を常に御自分の苦難としてくださる神が、新しい時代を生きる人々とともにおられるとイザヤは私たちに伝えてくださいます。

私たちも今、新しい時代の変化の中に生きざるを得ないところを生きています。「誰におびえ、誰を恐れて」とあるように「誰」がはっきりとせず、日々の大変化の中に汲々とし、流され、希望を持ってない私がいる。「お前は欺くのか。お前はわたしを心に留めず／心にかけることもしなかった。わたしがとこしえに沈黙していると思って／わたしを畏れない」と神から叱れ、信仰を失いそうな私がいる。しかし、私たちの苦難を常に御自分の苦難としてくださる方、十字架の主・イエス・キリストがいる。私たちを救い／愛と憐れみをもって私たちを贖い／昔から常に／私たちを負い、私たちを担ってくださっ

たイエス・キリストがおられます。大変化の現実を前にして、「キリストの十字架」は無力です。常識的にいえば力による自由を勝ち得ることこそすばらしいと感じ、思います。しかし、イエスさまはここに立たれませんでした。十字架を通して示された神の愛に立たれました。しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。 ガラテヤ5：14～15

とパウロは言います。世がどうこうではない、そこで十字架、神の愛によって世の力は打ち負かされ、私は神の愛によって、はりつけ一繋がれた、結ばれた一にされた。だから、世に対して、正しく対処していかなければならい、どうしなければいけないとかということが問題ではなく、私たちが救い／愛と憐れみをもって私たちを贖い／昔から常に／私たちを負い、私たちを担ってくださったイエス・キリスト十字架のここにこそ新しい創造が起きるのだとパウロは私たちに語りかけてくるのです。

イエスさまは72人を派遣するにあたって、「行きなさい。わたしはあなたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。」と言われます。力をもって世界を支配しようとする世界があり、これがキリスト教かと思うわせる現実があります。今、私たちをこの悪の力に支配された世界に送り出されます。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものです。私たちはたちまち世の力に食われていく力なき弱い存在です。しかし、十字架、神の愛が私たちを結んでいます。わたしはここにいる、ここにいると言った神が、イエス・キリストがいます。「行きなさい。」というイエスさまの言葉に励まされ、出ていきましょう。そして日々、神によって、世の厳しい現実とぶつかりながらも、信仰を生きるものとして新しく創造されていく出来事が起きることがあるという希望をもって、力による悪に満ちた時代を歩んでいきましょう。

たとえそうでなくても、神は共にいてくださいます。

母がその子を慰めるように、わたしはあなたたちを慰める

これが聖書のメッセージです。

牧師室の小窓からのぞいてみると

20 万人の方が亡くなった2022年度の沖縄全戦没者追悼式で、7歳の子どもが「平和の詩」を朗読した詩を紹介します。



こわいをして、へいわがわかった
びじゅつかんへお出かけ おじいちゃんや おばあちゃんも いっしょに みんな
でお出かけ うれしいな こわくてかなしい絵だった たくさんの人がしんでいた
小さな赤ちゃんや、おかあさん
風ぐるまや チョウチョの絵もあったけど とてもかなしい絵だった
おかあさんが、七十七年前のおきなわの絵だと言った
ほんとうにあったことなのだ たくさんの人たちがしんでいて ガイコツもあった
わたしとおなじ年の子どもが かなしそうに見ている こわいよ かなしいよ かわ
いそうだよ
せんそうのはんたいはなに？ へいわ？ へいわってなに？
きゅうにこわくなって おかあさんにくっついた あたたくてほっとした これが
へいわなのかな おねえちゃんとけんかした おかあさんは、二人の話を聞いて
くれた そして仲なおり これがへいわなのかな
せんそうがこわいから へいわをつかみたい ずっとポケットにいれてもっておく
ぜったいおとさないように なくさないように わすれないように こわいをして、
へいわがわかった
「平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ば
れるであろう。マタイによる福音書5：9」を噛みしめている。

園長・瞑想？迷走記



梅雨はあけ、酷暑の夏が到来し、熱中症に気を付けなければならない。
熱中症の危険が増し、子どもたちが外遊びを出来ず、外でのプール、水遊
びが出来なくなってきている。
これは、誰もが見ても地球温暖化による気象が変化し、酷暑を呼び、本来
のあるべき子ども夏の日常が過ごせないのです。アメリカ大統領は、科学的
の懐疑、経済優先、政治的なことで、地球温暖化を認めず、地球温暖化対策の
国際的な枠組み、「パリ協定」から離脱する大統領令に署名した。
教育機関を運営していくとき、社会の大きな影響を受け、政治、経済を抜き
にして考えられないことをひしひしと感じている。いつまで、子どもたちは暑さ
のために外に遊ばず、プールに入れないのか深いため息ばかりがおこる。こ
のため息に応える政治が地球規模で起こりますようにと祈るばかりである。

日々の糧

神を畏れる人は皆、聞くがよい／わたしに成し遂げてくださったことを物語ろう。 詩篇66:16



ルターの言葉から

愛する神よ、どうかあなたご自身がこれを治め、導いてください。私は喜んで自分の眼を、理性もろともえぐり取り、みことばによってのみ治めになるあなたにおまかせします。

『ルターの祈り』 石居正己編訳 聖文舎

神は私の歴史に働く

ユダヤ教を成立させた三つの歴史がある。天地創造、出エジプトとバビロニア捕囚である。苦難の歴史である。苦難の歴史を通して、神はその御業を示されたことを讃美する。

出エジプト（人が我らを驅り立てることを許された。我らは火の中、水の中を通った）とバビロニア捕囚（銀を火で練るように我らを試された。66:11 あなたは我らを網に追い込み／我らの腰に枷をはめ 66:12 人が我らを驅り立てることを許された。我らは火の中、水の中を通ったが）苦難を暗示しつつあなたは我らを導き出して（出エジプト、紅海を渡る、イスラエルの帰還の捕囚解放）／豊かな所に置かれた（蜜の満てる地カナンへの定着、イスラエルの帰還）と讃美する。

詠い手が「わたし」となり、この私が歴史を通して御業を働かれる神への感謝の讃歌をささげることになる。

「ここにおいて、民の救済史伝承が個人の救いを保証する根拠となり、逆に、個人的側面の重層性が織りなされることになる。この重層性こそは、公的側面と個人的側面の単なる『混合』でなく、古代西アジアの他の宗教にみられないヤハウェ信仰の構造的特質である。これを可能にさせた場が「神をおそれる者たち」の集うエルサレム神殿であったことはいうまでもない。」①

引用文献：①「詩編の思想と信仰Ⅲ」 月本照男 新教出版

祈り：歴史をお造りになる主よ、悪魔荒れ狂う今も、この時もあなたが働かれている希望をもって歩ませてください。アーメン

甘木通信

「被爆の実相」



トランプ大統領が、イランの核施設攻撃について、広島、長崎の原爆投下となぞらえ正当化した。への攻撃は）本当に破滅的だった。広島や長崎を見れば分かる。あれ（原爆）も戦争を終わらせた。今回の攻撃は形は違うが、同じように破滅的で戦争を終わらせた」

これに対して広島市市長は、「被爆の実相を理解していない発言だ」と苦言を呈した。認識を改めてもらうため、トランプ氏に被爆地を訪れるよう求めた。松井氏は『原爆が使用されれば敵味方の区別なく命を奪い、人類の存続にも関わると理解していないのではないか』と語った。トランプ氏に広島で原爆資料館を見学し、被爆者の言葉を聴いてほしいとし、在日米大使館関係者を通じて要望するとした。」（KYODO より）と語った。その通りだと私は思う。物事の真実を掴まない政治ほど怖いものはない。今、政治は「実相を理解していない」ところまで来ている危険水域にあると思う。

「被爆の実相を理解していない」まま、いつか核爆弾の使用が起きてても不思議でなく世界の政治の流れがある。中東の紛争、ロシアのウクライナ侵略が行き詰ったとき、北朝鮮の崩壊など、数えれば切りがない。

『「実相（じっそう）」とは、仏教用語で、物事の真実の姿、ありのままの姿、または真実の本性を意味します。Weblio 辞書によると。これは、現象の背後にある、変わらない真実の姿を指し、真如（しんにょ）や法性（ほっしょう）とも呼ばれます。」ということだ。宗教的なことばであるからこそ、実相を理解できる人を育てていくことこそ私たちの責任ではないだろうか。これが平和につながっていく。

（甘木日記）土）甘木教会へ。午前中は「キリスト教講座」、6名参加。午後は、花壇の手入れをする。夏日。日）厳しい夏日の中を礼拝に出席される。継続こそが教会が存続する。「キリスト教講座」での学びの一部を話す。月）暑すぎて涼しい内での外の作業のために早朝、日童幼稚園に向かう。火）早朝に。プール遊びを手伝い。七夕の準備で先生方は遅い。水）人を刺すような日差しの中での保育。危険と隣り合わせ。木）妻と二人で松崎保育園、甘木まで送っていただき二人でそれぞれの仕事をする。金）暑く疲れる。園児も同じだが、スイミングが出来る。よかった。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいます。



土）梅雨が明けると同時に夏日。朝、7時台の西鉄甘木線はいつもの光景と違い高校生が多く乗っている。羨ましくなるほどの清楚な命が車中にある。午前中は、「礼拝作法」を学ぶ「キリスト教講座」。午後は暑くて、室内で遠方会員へ小さな手紙を書く。これが意外と難しい。トウモロコシを持ってくださる方、聖壇の花を用意して下さる方などが来てくださる。信徒の方がホームセンター連れて行てくださる。夏花壇の花を購入。夕刻、日が落ちて苗を植え終る。少しづつ花壇を整えていこう。汗。日）人を刺し殺すような日差しの暑い日。経口補水液を離すことが出来ない。日差しが弱い早朝に庭に出て掃除をするが、汗が



あふれ出す。礼拝も終わる。無事に信徒さんが帰宅して欲しい。ブラジルのお酒ピンガをわざわざ送っていただく。次のブラジル焼肉の時にしよう。月）朝、一番に幼

（51は良く飲んでた。今回はイピオカ）稚園に来て、掃除、水遣り、草取り。では、甘木が心配になるが、どうしようもない。近くの無人古本屋で一冊、100円の本、「四国遍路」、重松清の本、梁塵秘抄の本を購入。火）夏は、外の仕事は出来ず、涼しい中で仕事をしなくやれない。いつからこんな状況になったのか。朝食の準備が整わなかったのかというか家内を起こさないで行こうと思っていたら起こしてしまっただけ嫌が悪い。午前中、小さな2クラスの水遊び。今日は、いつ読むのかキリスト教関係の本、三冊を購入。日が落ちて園庭掃除。水）昨日よりも早く朝食を家内が用意してくれて、一番に幼稚園に来て、道路側の掃除、水遣り、草取りが出来た。人を刺すような日差しの中を大学病院の定期検査に行く。外来患者さん中心の満足度調査のアンケートを取っている。非常に満足に◎をした。園に戻ると朝、花に水を遣ったがしおれそうになっているので、そっと水を遣る。日中は気温38度まで上がる。怖くて園児を外に出せない。預かりの子も17時を越えて外で遊ぶ。聖書の学び、職員会議、議事録の作成、園庭掃除。木）早朝に幼稚園に行き、花に水を遣りながら甘木の花を思う。家内と久留米から松崎保育園、松崎から甘木へと移動。回数券を買うとすると「失礼ですが、65歳以上では？」と言われ「はい」と応える。10枚つづりの回数券が13枚となって3枚、お得。甘木に来てみると、花が暑さで負けていた。これも運命と言いながら体が二つ欲しいと真剣に思う。帰りの電車で珍しく家内が久留米に着いても起きない。老いるのは私だけでないと気づく。よくここまで一緒にきたものだと思いを合わせる。金）夏日。園児も同じだが、心身疲れる。信徒さんが手伝いに来て下さり、スイミングが出来た。よかった。感謝。